



喜多 埜

七五三

十一月十五日は古くから「七五三」の日として良く知られています。三歳の男女、五歳の男の子、七歳の女の子が氏神さまにお参りに詣でる日本独自の人生儀礼です

古くには三歳は髪置き、五歳は袴着、七歳は帯解きといい、それぞれ子供の成長を祝福び名でしたが、いまでは殆ど使われません。

近年では満年齢の三歳、五歳、七歳にお参りされる方が多いですが、本来は数え年にお参りしますので、お正月一月一日の時点の満年齢に二歳足した年齢が三歳、五歳、七歳に該当する子供が正式な七五三詣の年齢です。（数え年とは、お母さんの胎内にいる期間を一年と考えるので、生まれてきた時には一歳になっているという考え方です。）

近年では十一月十五日にこだわらず、十一月中の土日を選ぶご家庭が増えましたが、元来、七五三詣での日というのは決まっておらず、徳川綱吉の七五三詣でに因んで十五日が吉日とされた事によりますので、十五日にこだわらなくても問題はありませぬ。

七五三の受付について

当神社では七五三詣でを付けています。当神社でのご祈祷はご予約を頂く形となっておりますので、七五三予定日の五日前までに電話か直接お越しになられてご予約下さい。

七五三の受付時間は午前十時から午後四時までです。土日はご予約が重なる場合もあり、その際は先着順となります事ご了承下さい

紀宮内親王殿下へ結婚

今月十五日は天皇皇后両陛下のご長女であられる紀宮清子内親王殿下の結婚式が行われるまたとない吉日でもあります。内親王の婚儀は昭和天皇の五女の島津貴子さん以来です。実に四十五年ぶりです。また、今までの内親王さまのように元華族や元大名家のもとではなく、あくまで一般家庭であられる黒田慶樹さんのもとに嫁がれるという点も、私どもにとって共感を覚える喜ばしい婚儀といえるのではないのでしょうか。

心よりお二人の慶賀の典を言祝ぎ、これからの黒田家の弥栄に御祝詞申し上げます。

きのこ

秋の味覚の代表といえば「きのこ」ですが、栽培技術が進み、松茸以外はほぼ年中目にするようになりました。しかし、昔は急に寒くなりだすこの時期でないと目にする事はないものでしたので、春の木の芽（野菜）、秋の木ノ子（きのこ）と呼んで、山野の神々の賜り物と、珍重されました。また日本は世界一きのこの種類が多く、また発生しやすい環境であり、シイタケに至っては鎌倉時代から輸出されるほどでした。きのこは寒い冬を控えて神様から私たちへのギフトかもしれませぬ。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ボーダフォン
ez web 対応



編著 網敷天神社 禰宜（神主）

白江 秀知

